

第一回ふげん社写真賞グランプリ受賞作

木原千裕 いくつかある光の

ふげん社写真賞は渡辺美術印刷創業70周年記念事業として2020年に創設され、第一回の応募者数は172名。選考員は飯沢耕太郎（写真評論家）、町口覚（造本家）、渡辺薫（渡辺美術印刷（株）代表取締役）が務めました。造本家・町口覚による、写真集には珍しい上質紙を本文用紙に使用した軽やかな造本設計も必見です。

雑誌「写真」
創刊号で紹介



木原千裕 『いくつかある光の』

著者 木原 千裕
造本設計 町口 覚
発行 ふげん社
印刷 渡辺美術印刷株式会社
発行日 2022年2月11日
サイズ 240×257mm
仕様 ソフトカバー・156頁
ISBN 978-4-908955-14-3
価格 5,000円（税別）

パンデミックが世界の分断を加速させていくのを肌で感じながら、

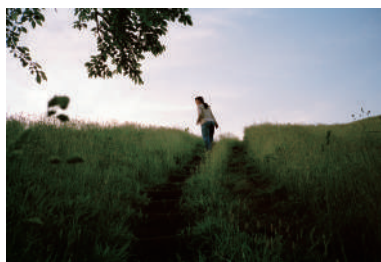
一人一人がどこかで生きる誰かの人生を想像することで、

豊かな世界になるのではないか。

何者でもない他者を撮影することは、未来の希望へと繋がる営みなのだ。（帯文より）

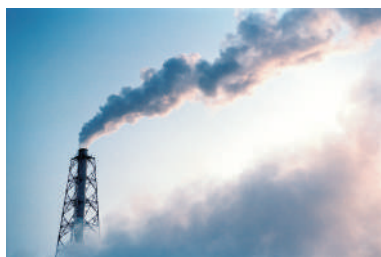
福岡出身の木原千裕は、2021年に第一回ふげん社写真賞と第23回写真1_WALLグランプリをW受賞した、期待の若手作家です。

本作は、たった4度だけ会った東北の海沿いの街に暮らす人を被写体に、赤の他人でもなく、友達とも言えない曖昧な関係で撮影されたシリーズ。木原は、2017年冬から2019年春にかけて、自身が住まう福岡からその人が生活する石巻へ撮影のために赴きました。



家族や恋人、友達という特別な関係ではない他者をテーマにした「いくつかある光の」シリーズは、人生における無数の出会いと別れの連続のなかで、一瞬自身と交わった存在を肯定し、あるがままを受け入れることができるのか、という試みでもあります。

パンデミックによって人と人との分断がさらに進む現在において、どこかで生きる誰かの人生を想像することこそが、豊かな世界、未来の希望へと繋がっていくのではないのでしょうか。自身を否定された経験を経てもなお、他者を肯定し、愛を携えて歩むことを選んだ木原の作品は、どこかで誰かのひとすじの光=希望となるでしょう。



「冬がいいですよ」

その人の声に従いこの地を訪れて今日で4回目となる。

家族でもない友人でもないまるで知らないその人は

東北のこの街に暮らしている。（作家テキストより）



プロフィール

木原 千裕 CHIHIRO KIHARA

1985年福岡県生まれ

同志社大学社会学部教育文化学科卒業。2021年、第1回ふげん社写真賞グランプリ、第23回写真「1_WALL」グランプリ受賞。2018年 塩竈フォトフェスティバル写真賞 特別賞受賞。



【展覧会情報】

第一回ふげん社写真賞グランプリ受賞記念 木原千裕写真展「いくつかある光の」

2月11日～3月6日 コミュニケーションギャラリーふげん社

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX：03-3721-1922 TEL：03-6715-6121
mail：info@tsubamebook.com http://tsubamebook.com

| | | |
|----------|---|---|
| 貴店名（番線印） | 新刊 ふげん社 | https://fugensha.jp https://www.shashin.tokyo/ 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人 |
| ご注文数 | 木原千裕写真集『いくつかある光の』 | |
| ご担当： 様 | ISBN 978-4-908955-14-3 C0072 定価 5,500円(本体5,000円+税10%) | |